

地域医療機関と連携して「健康寿命日本」をめざします。

脳神経医療センターでは、高齢による脳神経疾患を網羅。放射線診断専門医や公認心理師と連携し、科学的な診断・治療から、リハビリへとつなぎ、患者様の「自分らしい生活」の実現をサポートします。



脳神経内科 特任教授
日本内科学会名誉会員
小鹿 幸生

「認知症の正しい知識を、皆さんにお伝えしています」

老化と認知症を見極め
早めの対応が大切

加齢とともに起きる「もの覚えが悪い」「人の名前を思い出せない」などの症状は、脳の老化によるもの。この場合、体験の一部を忘れてもヒントがあれば思い出せますが、認知症では体験を丸ごと忘れてしまい、ヒントがあっても思い出せなくなります。

日本で最も多くみられる「アルツハイマー型認知症」では、脳の神経細胞の変性により、脳が少しずつ萎縮していきます。認知症を発症すると、もの忘れ(記憶障害)のほか、うまく話せない、言われたことができない、人や物がわからなくなる(生活障害)などの「中核症状」が現れます。また、一部の患者

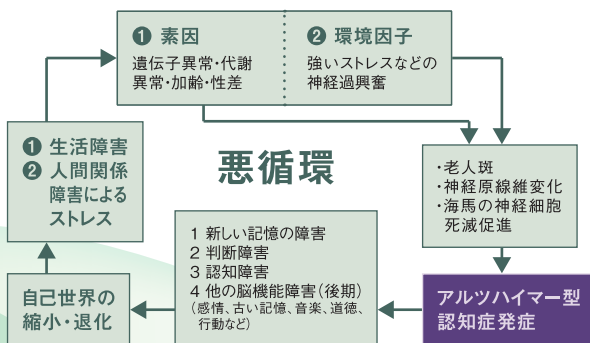
様には徘徊や妄想、幻覚、興奮しやすいなどの「周辺症状」がみられます。

認知症の診断は、放射線診断専門医による疾患特有の脳萎縮パターンに基づくMRIなどの画像診断、公認心理師による丁寧な認知機能検査、認知症をひき起こす原因タンパク質の測定データなどを基に科学的に行います。原因疾患の進行速度や症状に応じて、適切な治療を実施します。

認知症にストレスは大敵
笑顔で過ごせる環境づくり

「アルツハイマー型認知症」の発症には、強い肉体的・精神的ストレスが関与しています。遺伝子異常、代謝異常、加齢、性差などの素因にストレスが加わると、海馬領域の神経細胞に異常な化学変化(神経原線維変化など)や、エネルギー不足による神経細胞の死滅が起きます。これが一定以上になると、記憶障害のために判断や認知が障害されます。日常生活に支障をきたし人間関係がうまくいかなくなると、さらにストレスが加わり、悪循環を繰り返す。

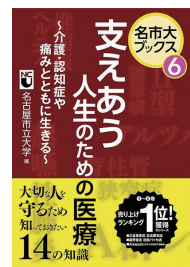
アルツハイマー型認知症の発症メカニズム



返して症状が進行してしまうのです。「アルツハイマー型認知症」の予防のため、生活習慣病にならないよう食事や運動に気を付けましょう。趣味や仕事などの日常生活を楽しみ、よく眠って脳を休ませることも大切です。家族や介護者は、本人を叱ったり注意しないよう心がけ、笑って過ごせる環境づくりに努めましょう。

認知症について詳しく知りたい方へ

★抽選で5名様にプレゼント!



名市大グッズ6「支えあう人生のための医療～介護・認知症や痛みとともに生きる～」名古屋市立大学編に、小鹿教授が「アルツハイマー型認知症にならない、負けないための生活習慣」を寄稿されています。



名古屋市立大学医学部附属
みらい光生病院
 〒465-8650
 名古屋市名東区勢子坊2-1501

公共交通機関(地下鉄・市バス)を利用する場合
 市バス「障害者スポーツセンター」下車、徒歩約2分
 ●地下鉄東山線「本郷」駅から市バス〔乗車時間約7分〕
 ●地下鉄鶴舞線「平針」駅から市バス〔乗車時間約25分〕

駐車場を利用する場合
 建物北側(障害者スポーツCの交差点から平針方面に向かって約130m先左側)に約30台分あります。(無料)

TEL.052-704-2345